

春岡村の伝説

丸ヶ崎観音堂 お堂の中の石造り馬頭観世音立像 延宝八年(1680)

バスに乗って東大宮駅に向かう途中、16号を渡って金井塚シクラメンのハウスの角を曲がると、セイムスの駐車場の奥に小高い塚が見えます。バスは見沼代用水にかかる出戸橋を渡りますが、出戸橋の手前を塚の方に脇道を少し行くと、旧出戸橋があります。これを渡った先に観音堂があります。お堂の中には大きな石造りの馬頭観音の立像があります。年に一度、3月のお彼岸の日に御開帳があり、お堂にあがって観音様を見ることができます。この日12時、当番の地元の方3人の手でお堂の格子扉がはずされ、多聞院のご住職の読経があります。昭和30年代ころまで、この日は多くの村人たちが集まり、連れてきた農耕用の牛がお堂の周りをぐるりと回り、その年丸ヶ崎に嫁いできたお嫁さんがお参りし、さらに屋台が軒を並べ、子供達はお小遣いを握りしめると、大変賑やかだったそうです。現在は当番の方とご住職が読経が終わったらしばらく世間話をして、そのあとすぐに扉を閉め、あっという間に解散です。お堂の扉は格子なので、閉まっても隙間から観音様を見ることができます。

この観音様は馬頭観音といって、頭の上に馬の頭が載っています。馬頭観音は死んだ農耕馬の供養や、人々の無病息災の祈りを込めて建てられます。延宝八年八月十五日と刻まれていて旧大宮市最古の石仏なのだそうです。近くの覚蔵院には同じ延宝八年の八月十九日と刻まれた、よく似た小ぶりの馬頭観音があり、なんらかの関係があるのかもしれない。

丸ヶ崎観音堂の馬頭観音は6本の手に様々な持物を持っています。次回はその持物についてお話しします。



東三番街 平山由喜